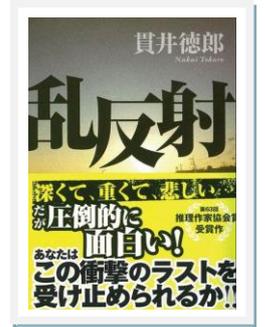




1. はじめに

新しい年が始まり、2025年最初の「生徒指導だより」をお届けします。今年もみなさんと一緒にさまざまなテーマについて考え、共有していきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

今回は、冬季休暇中に読んだ貫井徳郎さんの小説「乱反射」で感じたことを綴ります。この作品は社会問題をはらんだフィクション、ギミックがよくある形式とは一味違っているところも好感でした。「私くらいいいよね」が、どのようにして大きな影響を及ぼすのかを読者に訴えかけ、モラルについて考えさせられる一冊です。本校図書館にもありますので、興味がある人はぜひ読んでみてください。



2. 「私くらいいいよね」モラルの重みを考える

この小説は、2歳の男の子が一人亡くなるという内容です。一見すると不運な事故に見えますが、時系列を巻き戻していくと、私たちの日常生活に潜む「まあ、私くらいいいでしょ」という無責任な行為、誰しものがやってしまうようなモラルの欠如が積み重なり、予期せぬ悲劇を引き起こす様子を描いています。私たちも、「自分くらいいいでしょ」とってしまうことはありませんか？

たとえば、この小説の登場人物の中に、飼犬の排せつ物を放置する定年退職者がいます。彼は腰が悪く、しゃがむことが困難なため、「片付けないことは仕方ないことだ」と言います。夜間救急外来の常習者も登場します。その大学生がわざわざそこを受診する理由は、昼間に病院に行くと長時間待たなければならないからです。その病院には、「権利ばかりを主張する患者のエゴが、結局患者自身を適切な医療から遠ざけているのである。なぜ、それに気づかないのか」と世間の愚かさに苛立ちを覚える職務怠慢なアルバイト医が働いています。また、家族で旅行に行く際に、ごみ収集日に捨てられない家庭ごみをコンビニや高速道路のごみ箱に捨てようとする夫婦や自らの虚栄心を満たすために街路樹伐採の反対運動を起こす主婦等々。

これら行為の一つひとつは大きな罪ではなく、ましてや刑事罰に問われることもありません。本当は悪いことだとわかっているけれど、目をつむってこっそりする「小さな罪」。誰もがどこかで身に覚えがあるものばかりです。しかし、そんな一本の緩い光（小さな罪）が思いもよらない方向に乱反射（悪影響）し、幼い命が奪われる事故が起きてしまいました。

ここで以下の事柄について、少し考えてみてください。今年度、生徒指導室に寄せられた御意見の一部です。

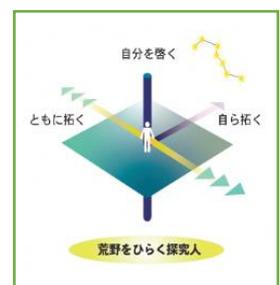
私くらいスカート短くてもいいよね	私くらい自転車のスピードを緩めなくてもいいよね	(バス停で)私くらい割り込んでもいいよね	私くらいちょっと学校を抜け出してもいいよね
私くらい北門付近で降車してもいいよね	自分たちくらい自転車で並進してもいいよね	(駐輪場で)私くらいちょっと自転車がはみ出てもいいよね	私くらいちょっと化粧してもいいよね

小説のタイトル「乱反射」は、小さなエゴイズムが乱れて反射し、交錯した果てに大きな災禍を引き起こすことを示唆しています。みんながみんな「このくらい、私がしたところで」と思っていたら、とんでもない世の中になってしまうなど読みながら少し怖くなりました。私たちは長い人生の中で、ついつい愚かな行為をしてしまうことがあります。「私くらいいいよね」という考えや「誰も見ていないからいいや」という慢心に駆られたとき、引き留めてくれる何か＝モラルを明確に持つておくべきだと思いました。

3. さいごに

現代は「正解が見出しにくい時代」と呼ばれています。このような時代を「荒野をひらく探究人」として生き抜いていく君たちだからこそ、**自分で考え、判断できる力を培っていかねればなりません**。「誰かに怒られるからやめておこう」ではなく、「してはならないからやめておこう」という考えが大切です。

本校の生徒心得(校則)には、“管理と統制”を表すような文言は記載されていません。その理由は、その時々状況を自ら鑑み、どのような行動がふさわしいかを判断できる岐阜北高生であってほしいという願いに立脚しているからです。学校の主役である生徒が、生徒会や生徒議会、委員会等を中心に風紀の乱れにつながらないような取り組みや品位を高めるような自主規制等が導入できると、なお素晴らしいと思っております。



あなたは どう 思いますか？